



2026年3月14日 発行

No.253 (3月号)

地縁法人 安食台3丁目自治会
発行責任者 自治会長 早川俊次
発行者 総務部広報 西浦賢

Communication Paper 安食台3丁目自治会だより

2月の活動報告

- ◇会議
 - 自治会役員会 2月8日(日)
- ◇行事
 - 役員・監事候補者選出会議 2月8日(日)
- ◇会員数 283世帯

4月の予定

- ◇会議
 - 自治会役員会議 4月12日(日)
 - 自治会班長会議 4月12日(日)
 - ブロック長会議 4月25日(土)
- ◇回覧 4月12日(日)
- ◇行事
 - 第42回通常総会 4月5日(日)
 - 新旧役員・監事引継ぎ 4月5日(日)
- ◇集会所鍵当番 滝川 雅貴(6-5)

令和7年度の自治会活動を振り返って

自治会長 早川 俊次



主な成果と活動内容
交流の活性化: 200名超が来場した「つながり文化祭」を成功させ、他自治会から助言を求められるモデルケースとなりました。また「子供楽しみ会」も親子の参加が多く活気に溢れました。
環境緑化: ボランティア団体「花結(はなゆい)」を設立し、緑道への花植えを通じて地域を明るく彩る環境を整えました。
安全・利便性の向上: 老朽化した長椅子の撤去による事故防止や児童公園への水道設置要望など、住民の安全と利便性を追求しました。
効率的な運営と維持管理: 役員による除草作業で約4万円の経費を削減し、集会所の清掃外注により衛生環境も改善しました。
防災体制の強化: 安否確認や合同防災訓練、年末の防犯パトロールを完遂し、安心な町づくりを推進しました。
規約の柔軟化: 懇親会の参加制限を撤廃し、より多くの会員が交流しやすい組織へと改善しました。
 これらの取り組みは、役員、ボランティア、サポーターの連携により、自治会に新たな活力をもたらしました。

役員退任挨拶『一年間の感謝を込めて』

地域の皆様、日頃より自治会活動に多大なるご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。早いもので、3丁目自治会役員としての一年間の任期を無事に終えることができました。この一年、清掃活動や防犯パトロール、季節の行事などを通じて、多くの皆様と交流し、地域の絆を再確認することができました。皆様の温かい支えがあったからこそ、大きな事故もなく活動を全うできたと感じております。不慣れな運営でご不便をおかけした点もあったかと存じますが、最後までお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。今後も3丁目が良い街であり続けることを願い、退任の挨拶とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。



栄町今昔 過去から現在、そして未来へ

栄町今昔：最終回「受け継がれる誇り、共に創る未来」

一年間にわたり連載してまいりました「栄町今昔」も、ついに最終回を迎えました。私たちの住むこの町が歩んできた道のりを振り返ると、そこには時代の荒波に揉まれながらも、力強く形を変えてきたコミュニティの姿があります。

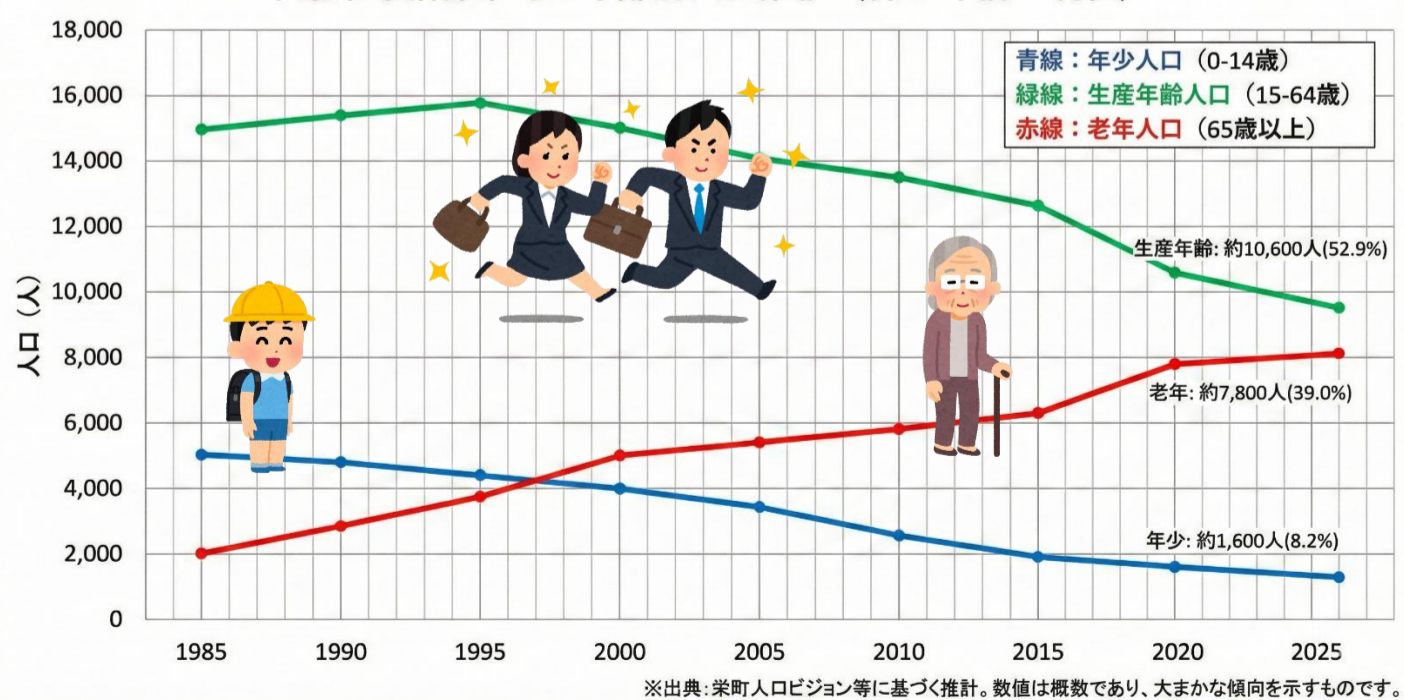
急成長の足跡：1970年から1995年へ

栄町の大きな転換点となったのは、1970年代でした。当時は約9,000人だった人口が、JR成田線の電化や大規模な宅地開発をきっかけに急増しました。かつての新興住宅地、安食台には多くの子どもたちの声が響き渡り、町全体が活気と熱気に包まれていたのを覚えている方も多いでしょう。この勢いは1995年にピークを迎え、人口は25,615人を記録しました。しかし、その後は全国的な少子高齢化の波に抗えず、人口は減少へと転じます。2020年には約2万人にまで減少しました。ここで注目すべきは、単なる「人口減」だけではない、社会構造の劇的な変化です。

家族の形の変容：4.53人から2.43人へ

統計データの中で最も衝撃的なのは、世帯構成の変化です。人口が減少する一方で世帯数は増え続けており、1世帯あたりの人員は4.53人から2.43人へと、ほぼ半減しました。かつての大家族を中心とした暮らしから、核家族化が進み、今や単身世帯が珍しくない時代へと移り変わったのです。これは、私たちが「個」の生活を尊重するようになった証であると同時に、地域における「孤立」を防ぐ新しい仕組みが求められていることを示唆しています。

千葉県印旛郡栄町の年齢別人口推移（約40年前～現在）



課題を希望へ：自然減と社会減への挑戦

これまでの町づくりにおいて、最大の課題は「自然減(死亡数が出生数を上回る)」と「社会減(転出が転入を上回る)」のダブルパンチでした。特に若年層の流出は深刻な問題でしたが、近年の積極的な移住・定住施策が実を結び始めています。最新のデータでは社会減に改善の兆しが見えており、私たちの町の魅力が、再び外の世界へと伝わり始めているのです。

町は現在、2026年度(令和8年度)に「人口2万人」を維持するという目標を掲げています。2030年には推計で約1.6万人まで落ち込むという厳しい予測もありますが、あえて高い目標を掲げることで、持続可能なまちづくりへの不退転の決意を示しています。

未来へのビジョン：「誇りと愛着のもてるまち」

これからの栄町が目指すのはかつての「水と緑の田園観光都市」という基盤の上に、SDGsの視点を取り入れた新しい価値を積み重ねることです。

具体的には、以下のような多角的な取り組みを全庁挙げて推進していきます。

- ・子育て世代の支援: 移住・定住をさらに促進し、若い世代が「ここで育てたい」と思える環境を整えます。
- ・自治体DXの推進: デジタル技術を活用し、行政サービスの利便性を飛躍的に向上させます。
- ・脱炭素社会の実現: 再生可能エネルギーの活用を進め、次世代に豊かな環境を引き継ぎます。
- ・「一生現役」で輝ける町を求めて

かつて子どもたちの声で溢れた安食台は、今や緑豊かな落ち着いた住宅地へと成熟しました。そこでは、近隣住民が互いに支え合う「見守り」の意識が自然と生まれています。私たちが目指す未来像、それは「多世代共生」の町です。

空き家を有効活用した地域の「茶の間(サロン)」で世代を超えて交流し、現役を退いた世代がその豊かな経験と知恵を若者に伝えるワークショップを開催する。年齢を重ねても役割があり、誰もが「一生現役」で輝き続けられる場所。そんな「ひとが元気 まちが元気」な姿こそが、栄町が目指すべき真の自立したまちの形です。

「みんなでつくる水と緑のふるさと さかえ」。この言葉を胸に、私たちは新しい一歩を踏み出します。これまで歩んできた歴史に誇りを持ち、明日への愛着を育みながら、希望ある未来を共に創っていきましょう。一年間、ご愛読いただき、誠にありがとうございました。

引用：栄町第5次総合計画 後期基本計画(案)



広報つながりや各種情報は3丁目ホームページからもご覧になれます。
<https://www.catv296.ne.jp/~ajikidai3choume/>



私と栄町に引っこして
 千葉県栄町移住促進PRムービー ロングVer
<https://www.youtube.com/watch?v=Hq2j7Kaz5fs>